

アジア成長研究所(AGI)外部評価結果 (評価対象年度 平成27年度)

5=大変評価できる 4=評価できる 3=普通 2=あまり評価できない 1=全く評価できない (目的評価の評価点は実績評価点の評価者別の平均点(四捨五入))
 ※評価者と評価内容及び評価点の順序は不規則になっており関連性はありません。

区分	評価項目	評価内容	評価点	評価平均点		
目的評価	A に市へ1 貢(国) し際高 た水度 か準な のアジ 知的ア 基研 盤究の を強推 化進し 、発 展本	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアを中心とした教育・研究機関との関連な交流並びに協定締結等を通じ、北九州市のグローバル化促進の牽引機関として評価に値する活動を行っている。その実績は国際的にも高度なレベルにあると思われる。 主な成果指標に対する目標は、いずれも達成しており評価できる。 国内外学会等での研修発表数も目標をクリアしており、北九州市の国際水準の知的基盤と発展に同研究所は充分貢献している、と考える。 著名な学術雑誌に論文が掲載されていること、RePEcで第11位にランクされていることから、高度なアジア研究を推進していると評価できる。昨年度13本だった調査研究数が8本にとどまったことが目に留まった。 研究活動の質(RePECランキングの高さ)と量の両面において十分な成果を挙げ、本市の知的基盤の強化に貢献した。アジアの経済学術界におけるAGIの知名度をさらに向上させてほしい。その意味では、著名研究機関との連携は重要であり、中国社会科学院とのMOU締結は良かった。 研究はもとより研究会の開催、海外研究機関との協力・連携など、さまざまな観点から活動しており、その実績はいずれも目標を上回っており、「高度なアジア研究を推進」するという目的に対して役割を十分に果たしている。今後はもう一方の目的である「本市の国際水準の知的基盤の強化と発展に貢献」に対して、何をすべきか、現状の成果指標のままでよいのか、地域貢献の視点から検討が必要ではないかと思われる。 	4	4.6		
			5			
			5			
			5			
			4			
	B 略(に2) 貢(国) し際高 た水度 か準な のアジ 知的ア 基研 盤究の を強推 化進し 、発 展本	<ul style="list-style-type: none"> 本市の人口動態・都市構造、東アジアのシームレス物流、中国人観光客の旅行先選択行動と影響要因等北九州の成長戦略を考えるうえで重要な研究を行い、政策を提言した。成長戦略フォーラムを通じて市民に対して本市成長のための示唆を数多く与えた。 一般市民向けの「成長戦略フォーラム」も昨年に続き、大変好評であったと聞き及んでいる。このような市民意識向上の活動がひいては、地域発展・成長の原動力となると認識している。 成長戦略フォーラムはテーマも具体的で、参加者アンケート結果も好評であり、市の成長戦略立案に充分貢献している、と考える。 北部九州の地域経済や国際社会の情勢などを「成長戦略フォーラム」をつうじて、企業をはじめ多くの方に分かり易く提供したことは評価できる。また調査研究や委員会など、さまざまな取り組みにより、地域貢献を果たそうとする姿勢も評価できる。 今後は、何ができるのか(プロダクトアウト)ではなく、企業や行政機関などがAGIに対して何を期待しているのか、マーケットの視点から活動内容をこれまで以上に検討して欲しいと思う。 市政・企業活動に関する調査研究をみる限り、本市の成長戦略に貢献する研究をもっと強化する必要があるのではないか。 	4	4.2		
			4			
			4			
			4			
			5			
区分	評価項目	評価内容	目的評価A 評価点	目的評価B 評価点	目的評価A 平均点	目的評価B 平均点
実績評価	① 成果 指標 実績	<ul style="list-style-type: none"> 上述の通り、主な成果指標はいずれも達成しており、評価できる、と考える。 調査報告書作成数が目標を下回ったものの、その他については設定した数値目標を達成した。 非常に高い達成率である。 設定した数値目標を達成している。 アジア研究については、限られた陣容のもとで量・質ともに十分できており高く評価できる。 地域貢献については、成果指標の目標値がそもそも低すぎるように思われる(例えば、市政・企業活動に関する調査研究数、市の政策委員会等への参画数は、それぞれ研究員一人あたり1件、3件欲しい) 	4	5	4.8	4.6
			5	5		
			5	3		
			5	5		
			5	5		
	② 報告 内容 作成 率 AGI 年度 アウト プツ 活動	<ul style="list-style-type: none"> アジア研究については、研究に止まらず、さまざまな視点から取り組んでおり、大変評価できる。 地域貢献については、政策提言や助言にとどまるのではなく、問題解決まで踏み込んで欲しい。問題解決をリードすることにより、新たな課題を発見することができる。 昨年と同水準を維持し、十分な実績と評価できる。論文・講演等研究成果のアウトプットの機会及び質を今以上に高め、認知度向上を図って頂きたい。 研究活動としては十分であるが、研究テーマの設定にあたっては、もっと社会やビジネスのニーズにあった設定の方法が考えられないか。 研究事業では、アジアおよび北部九州地域への学術貢献の観点から適切なテーマ選択がなされている。ただし、HP上には2015年度の調査報告書が未だ掲載されていないため、中身の評価はできなかった。 研究者向け研究会活動も活発に開催されており、評価できる、と考える。 	4	4	4.6	3.8
			5	3		
			5	5		
			4	3		
			5	4		
	③ その 他 等 Re PE C	<ul style="list-style-type: none"> 東大・京大等のトップクラスの大学及び日銀・経済産業研究所に伍しての11位であり、一地方自治体が有する研究所としては、飛びぬけたランクに位置している。 RePEC国内ランキングで高い順位に位置している。 RePEcランキングが第11位であり、学術的に非常に高いレベルであると判断される。 RePEcランキングはアカデミックの世界では意味があるのかもしれないが、AGIというシンクタンクにとってどういう意味を持つのか不明。 RePEcランキングにおいては国内10%内に位置し、客観的にも非常に評価されていることが判る。 	5	/	4.8	/
			5			
			5			
			4			
			5			
	④ 成長 戦略 フォー ラム 結果	<ul style="list-style-type: none"> 地域密着のいいテーマが設定されている。こういうテーマをAGIのプロパー研究員が取り組めば、AGIの本市への貢献度が高まるのではないか。 毎回タイムリーなテーマの講演会が開催され、その結果、参加者は80名(平均値)を超え、アンケート結果でも「良かった」の割合が88%あり、評価できる。なお今後、当フォーラムと地域貢献との関連性から当フォーラムのAGIにおける位置づけを再考して欲しい。 経済や産業情報を軸に多角的なテーマを設定され、一般市民へも分かりやすく有益な内容となっている。参加者の満足度も高い。個人的には次世代を担う学生等を含む年齢層へも更に門戸の広がる活動を希望する。 上述の通り、テーマも具体的であり、参加者のアンケート結果も好評であり、時機を得たテーマ選定が奏効した、と考える。 テーマについては、北九州に関する内容を中心にアジア、グローバルなテーマも含み適切に設定されていた。アンケート結果も大変良好であった。 	/	5	/	5
5						
5						
5						
5						
⑤ 成長 戦略 フォー ラム 結果	<ul style="list-style-type: none"> アウトリーチのテーマとしては十分な設定である。 AGI研究員の専門分野とマスコミの関心をマッチングしようとした努力がうかがわれる。 メディアを対象とするには、テーマがやや細かい気がする。HP上で議論の内容を公開しているのは良い。 毎回興味深いテーマで開催されており、評価できる一方、マスコミの反応やマスコミから得られたさまざまな示唆がどういったかたちでAGIの地域貢献活動にフィードバックされたのか分からない。 5回開催されているが、テーマ選定は時機にあったものである。 開催結果がメディアにどう取り上げられたかは、資料がないので判断不能。 	/	4	/	3.6	
			3			
			4			
			4			
			3			
⑥ 状況 調査 外部 講師 等活	<ul style="list-style-type: none"> 八田所長を中心に審議会委員、研修講師、メディアコメント等活発に活動している。 大学への講師派遣やJICA九州での講義など、外部での活動が活発にあり、評価できる。一方、審議会等委員においては、昨年度に比べて改善されたものの、一般研究員の参画が少ないように思われる。審議会は地域の課題を知るよい機会となり、地域貢献活動の源泉になることから、積極的な参画を期待したい。 市の政策委員会への参加や大学への講師派遣など外部での活動による貢献が図られている。 外部セミナー講師、JICA講師、企業講師と幅広く活動している。 活発な活動の割にはメディアに取り上げられる回数は少なかった様に思われる。もっと活発なPR活動が必要ではないか? 所長以下、関連に外部でも活動されており、AGIの価値向上に寄与している。 	/	4	/	4.2	
			4			
			4			
			5			
			4			

総
評

・本市が実践している成長戦略が、特に東アジアへ汎用出来、且つ拡大できるか、その方策を学術的に探っている貴所の活動について昨年より更に理解が深まった。本市に内在する各種課題(超高齢化や環境施策への取り組み、また交通インフラの有効活用等)の分析、政策研究等を通じ、同様の課題を抱える東アジア各都市との連携・協働を行うことで、アジア全体の発展推進力としての貴所の存在の意義は益々高まると思われる。今後はロジスティクス、グローバルビジネスの分野の更なる研究・発表も期待したいところであるが、弊社として何かお役に立てる部分があれば、と思慮する。また、アウトプットのみならず、模範的ケースであれば多角的視野を持ち、インプットにも注力しようとしている貴所のバランス感覚には非常に力強さを感じる。昨年と同様の評価を行ったが、「成長戦略フォーラム」に関しては、実践的地元貢献活動であり、「知」の還元の間として今後も継続して、テーマ・登壇者等の精査を行って頂きたい。

引き続き学術と実践の融合点としてAGIの活動へ大いに期待を寄せている。

・AGIとしてアジアのどういう分野に重点的に取り組むのか、北九州市にどういう分野で貢献していくのか、まずAGIの戦略が明確に外部に伝わり、その上でその戦略を担う研究員の一人ひとりの姿が見えるようになれば、AGIの存在感がさらに高まるように思う。

・組織は状況に応じて、ミッションを柔軟に変化させなければいけない。AGIのミッションは、研究機関として高度なアジア研究を行うこと(以下、研究機能)と、シンクタンクとして北九州市の発展に貢献すること(以下、シンクタンク機能)である。前者の研究機能については、前述の評価のとおり、顕著な実績を生み出して高く評価できる。一方、北九州市を取り巻く環境は厳しく、高齢化や人口減少、既存企業の高度化などさまざまな課題に直面している。こういった中で、後者のシンクタンク機能への期待が高まり、AGIとしてもシンクタンク機能の充実強化を図る必要があると思われる。

なお、行政機関や企業がシンクタンクに期待しているのは、問題の発見とその解決である。与えられた課題に対して政策を提言するだけでは不十分であり、自らがプロジェクトを興し、実行する行動力と調整力が所員一人ひとりに求められる。

・同研究所のミッションである

- 1 高度なアジア研究を推進し、本市の国際水準の知的基盤の強化と発展
- 2 研究活動を通じて、本市の成長戦略に貢献

は充分果たしていると考え。強いて言えば、RePEcランキングでは、東大・京大等のトップクラスの大学及び日銀・経済産業研究所に伍しての11位であり、地方公共団体の研究機関としては飛びぬけた実績を上げている。その割に、メディアへの露出は少なく、結果として専門家は別にして、一般的にアジア成長研究所の知名度は低いと思われる。

市の評価でも指摘されているように、もっと活発なPR活動が必要ではないか?、と考える。

・AGIは、学術面での発信で水準の高い位置を維持しており、本市のレピュテーション向上に寄与している。今後、「アジアの都市化」、「アジアはいかに中所得国の罅を克服するか」等をテーマに、アジアの著名な研究機関との共同コンファレンスを北九州で開催することで、アジアの学術界において北九州、AGIの知名度を高めることとインバウンド需要の拡大の一挙両得を狙えるのではないかと評価できる。

・AGIの成長戦略フォーラムは、学術界、実務家など多様な講演者による時宜を得たテーマの講演が行われていると評価できる。

・AGIの研究テーマの多くは、北九州市の成長戦略に関わるものである。もっとも、各研究成果が北九州市の成長戦略の策定・実行に具体的にどのように役立ったか、戦略を実行してどれだけ成果が挙げられたのか、わかりづらい。今後は、こうした観点からの突っ込んだ評価を行うことが望ましい。そして、具体的な成果が挙げられるよう研究活動の内容を変えていくことが望ましい。また、研究、政策立案とその実行を結び付けられるよう、北九州市から職員を外向させ研究に当たらせるといった工夫もあってよいのではないかと。